川口の教育

東領家小学校６年生太鼓体験（Ｒ２．１１．２６）

第６２０号

【目　次】

年頭のあいさつ　川口市教育委員会教育長　茂呂　修平　・・・・(2)

教育随想①　「出会いと学び」　川口市立木曽呂小学校長　中河　正明　・・・・(3)

教育随想②　「２校２５年」　川口市立東中学校長　安部　正幸　・・・・(3)

指導の手引き　「川口市中学校英語科「５ラウンドシステム」を軸とした抜本的な授業改革について」
川口市教育局指導課指導主事　千葉　悠　・・・・(4)

私の教育実践　「生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりの工夫」
川口市立青木中学校教諭　橋本　美咲子・・・・(5)

教育ルポ　・・・(6)~(8)

題　字　　川口市教育委員会教育長　　茂　呂　修　平

1月号

－令和３年－

編集・発行　川　口　市　教　育　委　員　会

年頭のあいさつ

川口市教育委員会教育長　茂呂　修平

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、令和３年を、心も新たに希望に満ちた清々しい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。

振り返りますと、昨年３月２日から新型コロナウイルス感染症拡大を受け、本市でも臨時休校を余儀なくされ、さらに４月７日に国の緊急事態宣言が発令され、学校再開まで約２か月の期間を要する事態となりました。

この間、各学校におかれましては、子供たち一人一人の把握、学習支援、再開後の分散登校、毎日の消毒作業、土曜授業の実施、夏季休業の短縮、日々の教育課程の実施など、子供たちの命を守りつつ、学びを止めないようにと学習保障にご尽力いただきました。校長先生、園長先生をはじめ、教職員の皆様に深く感謝申し上げます。このような状況の中において、朝日東小学校が学校保健文部科学大臣表彰の受賞というう れしい報告もございました。改めまして敬意を表します。

現在においても、新型コロナウイルス感染症拡大の収束の見通しは見えず、子供たちが楽しみにしていた多くの学校行事などを中止せざるを得ませんでした。各学校におかれましては、引き続きコロナ禍における子供たちの心のケア並びに心の教育の推進をお願いいたします。

さて、本年４月より、県内で４校目となる川口市立高等学校附属中学校が開校いたします。川口市に在住する未来ある子供たちを、様々な分野で活躍するリーダーとして育成するため、中高６年間の特色ある教育活動を進めて参ります。

母体となる川口市立高等学校は、文武両道を理念に、最新のＩＣＴ環境によるアクティブラーニングの授業実践や大学との連携による学習支援等を行っております。また、令和３年度入学生より普通科に「スポーツ科学コース」を設置し、スポーツ選手としての活動に取り組みながら大学進学を目指す生徒を育成します。部活動においては、陸上競技部、ボート部の全国大会出場をはじめ、多くの部が各種大会で活躍しております。今後も本市のみならず、埼玉県のリーディング校となるよう尽力して参る所存です。

また、本市では、ＧＩＧＡスクール構想の実現を加速させ、年度内に市内すべての小・中学校の児童生徒及び教職員に１人１台の端末を導入し、教育ＩＣＴ環境を整えます。ＩＣＴの活用に向けて、ＧＩＧＡスクール導入研修会を実施し、教員の指導力向上に努めて参ります。

子供たちが、これから新しい時代を生きていくには、何事にも主体的に取り組む意欲や多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、思いやりなど豊かな人間性を身に付けることが求められています。

教育委員会といたしましては、子供たち一人一人が課題の解決に向けて粘り強く追究するたくましさをもち、他者との対話を通じて多面的・多角的に物事を捉え、柔軟に考えを広げ深めることができるしなやかさを身に付けた子供たちの育成を図るため、引き続き、全ての事業を鋭意、推進して参ります。

各学校・園におかれましては、一人一人に寄り添い、児童生徒が持つ力を確実に伸ばす指導法の工夫改善に努め、一人一人が輝く教育活動を充実・発展させることをお願いいたしまして、年頭のあいさつといたします。

〈教育随想〉

出会いと学び

木曽呂小学校長　中河　正明

大学４年生のとき、就職先として民間と教職の２通りの選択肢がありました。教育実習先が川口市の小学校で、そこで参観させていただいた示範授業に感銘したことは今も記憶に残っています。４５分間の授業で先生が話す場面が３回だけでした。課題の確認、中間場面での話合いの方向性の確認、まとめの確認だけです。正に今求められている主体的・対話的な学びを見せていただいた気がします。物を作ったり、売ったりする仕事よりも人を教え育てる教職の道を選びました。

昭和５９年４月に県立養護学校への赴任となりました。学生時代に特別支援教育をきちんと学んでいなかったので不安もありましたが、教育の原点を学ばせていただきました。どんなに障害があっても子供は必ず成長します。わずかな子供の変容を焦ることなく待つことができます。教職にとっては、大変貴重な４年間の経験でありました。

次に川口市の小学校への着任となりました。市教委に関わる前に３校の小学校を経験させていただき、養護学校の経験を生かした学級経営、できるだけ教師が話さない教科指導法に教諭として尽力しました。また、研修主任という立場を長く経験させていただき、学校課題研修の大切さを学ばせていただきました。どの学校でも子供、保護者や地域の実態に沿った研修でなければ、変容は見られないことを実感しました。

市教委時代は、素晴らしい授業実践をたくさん参観させていただきました。また、各学校の校長先生から貴重な学校経営についての見識をお聞きし、自分を一回り成長させていただきました。管理職としては、３校経験させていただきました。とりわけ現任校においては、県より「未来を生き抜く人材育成」事業の指定を受け、教職員全員で子供たちのつまずきをどの様に捉え、受け止めて解決していくべきかを研究することができ、充実した日々を送っています。

現在のコロナ禍で、理想とする主体的・対話的な学びを実践していくことは難しいかもしれません。しかし、どの場面でも教職の道を選んだ自分にとって、かけがえのない財産は子供たちの笑顔です。また、いろいろなことで支えてくださったすべての方に感謝申し上げます。

２校２５年

東中学校長　安部　正幸

私が校長として着任した在家中と東中は、いずれも教諭としても長くお世話になった学校です。両校ともに当時の教え子たちが、校長としての私を保護者になって迎えてくれました。

在家中学校（教諭８年、校長３年）

新卒で着任した在家中は開校２年目で、特別教室棟や体育館は無く、理科室はプレハブでした。その中で初代校長　鈴木昭二先生の打ち出した「生徒第一主義」のもと、先生たちが新しい学校づくりに燃えていました。私が最年少でこの学校づくりの仲間に入れていただけたことは、２１年後再び新任校長として在家中に着任したとき大変役に立ちました。また、鈴木校長先生が当時若輩者の私に向かって「学校は何事もなくて当たり前。事が起きたらどんなに小さなことでも一大事と思え。」と言われたその言葉は、そのまま校長となって危機管理の根底となる大切な言葉になりました。

東中学校（教諭９年、校長５年）

教諭として２校目となった東中が、校長としても２校目の学校になりました。教諭の時に創立５０周年をむかえ、１５年後に校長として着任し、創立７０周年の式典に臨みました。地域には知っている方が多くいて、日頃の学校経営にも大変協力していただきました。その地域の方たちや先生方のおかげで、私が目指していた東中の学校像に一歩、二歩と近づくことができたと思っています。東中がもつ川口市の学校番号１番は、川口市のみならず、南部地区、埼玉県においても多くの場面で１番でした。川口市立東中学校の前に他の中学校はないと考えると、私にとってはそれが誇りであり、ある時は心の支えにもなりました。

多くの出会いに感謝して

残りの１２年間は、草加栄中、戸塚中、学務課、指導課、川口総合高校で勤務しました。これまで多くの人達との出会いがありました。よく「出会いは奇跡」と言いますが、その出会いによって、実に多くの人たちから支えられてきたものだと感じているところです。その多くの人たちとの出会いに感謝しつつペンを置きたいと思います。

川口市中学校英語科「5ラウンドシステム」を軸とした抜本的な授業改革について

川口市教育局学校教育部指導課　指導主事　千葉　悠

１　はじめに

来年度から全面実施となる中学校学習指導要領の外国語科では、「即興で話す力」の育成が新設されるとともに、授業は英語で行うことを基本とすると示された。

そこで、来年度より市内中学校全２７校では、「自分の考えや思いを英語で表現できる生徒」を育成するために、これまでに横浜や熊谷で非常に高い成果をあげている指導法の「５ラウンドシステム」を軸とした授業改革に取り組む。

２　「５ラウンドシステム」とは

本システムは、教科書を効果的に活用する指導法で、教科書の全単元のストーリーを年間で５巡、繰り返し学習する方法である。ラウンドごとに学習の目標を変えながら単元の同じストーリーに繰り返し触れるスパイラルな学習により、英語表現の効果的な習得と運用を可能にする教授法である。

＜第１学年の各ラウンドの指導内容と活動内容＞

	ねらいと指導内容	主な活動内容
R1	インプット：リスニングによる【音声中心の概要理解】	ストーリーを聞いてランダムに並んだ絵を内容順に並び替える。
R2	インプット：リスニングによる【音声と文字の一致】	ストーリーを聞いてランダムに並んだ文を内容順に並び替える。
R3	インプット：内容を理解した上での【音読】	新出単語の意味・発音の確認後、本文を音読する。
R4	インプット：穴あき音読シートによる【文の構造を意識した音読】	動詞や前置詞などを空欄にした本文の音読シートを見ながら音読する。
R5	アウトプット：自分の言葉でストーリーを伝える【話す・書くリテリング】	絵を用いながら自分の言葉で本文のストーリーを話して伝える。その後、書いて伝える。

３　全国学力テストの結果から見る本市の課題

全国学力テストは、学習指導要領において特に重視される点を具体的に示す、いわば文科省からのメッセージとも言える。

本テストでは、ただ知識を問う問題だけでなく、目的や場面に応じてその場で伝えたい内容を考え、英語で表現する問題が設定された。これは、新学習指導要領で求められている、もっている知識や技能を総合的・統合的に活用し、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて表現したり、伝え合ったりすることができる力の育成につながるものであると捉える。

２０１９年度全国学力テストの平均正答率は下記の通りで、本市は「聞く」「読む」に課題が見られた。

技能	埼玉県	川口市	県との差
聞く	68.9	66.6	-2.3
読む	56.0	54.0	-2.0
書く	45.9	44.6	-1.3

４　なぜ「５ラウンドシステム」が必要なのか

本市生徒の課題克服と新学習指導要領で求められる生徒の育成の両方を実現するためには、「聞く」「読む」ことの学習の強化とともに、「話す」「書く」ことを加えた、総合的な力を育成するための授業改革が急務である。

本システムはこの４技能を、言語習得時の自然な順序で身に付ける方法として効果的である。ラウンド１～４の「聞く」「読む」活動によって十分なインプットを行い、最終ラウンドの「話す」「書く」表現活動でアウトプットを実現する方法である。

５　「５ラウンドシステム」実施における心構え

インプットに十分な時間をかける本システムを理解すると、押さえておきたい教師の心構えが見える。それは、「生徒のアウトプットを急がせない」ということである。なぜならば、学習者はインプットされた表現に気づき→それを理解して自分の言葉として取り込む内在化を行い→複数の既存知識とつなぎ合わせる統合の作業を経て、ようやくアウトプットされるからだ。つまり、教師は、説明して教え込むのではなく、気づきを促す発問や例文を数多く与え続け、生徒の思考を促して「待つ」ことが大切である。正しく書いたり、話したりすることを決して急がせない指導をお願いしたい。そして、相手に自分の考えや気持ちを伝えることの大切さを説き、表現力は、語順ミスやスペルミスの積み重ねによって磨かれていくことを伝え、生徒が臆することなく英語を発話することを促す授業を展開したい。

６　小中連携の視点から見る「５ラウンドシステム」

小学校高学年では、今年度から教科「外国語」としての学習が始まった。中学年で「聞く」「話す」ことをしながら英語に慣れ親しみ、高学年では、音声と文字を一致させる「読む」「書く」ことが加わり、４技能すべての学習が教科書を活用して展開されている。

本市中学校で実施する本システムは、まさに小学校で行われている「聞く」活動から始まる。よって中学生は、小学校の授業で、聞いたことがある、発話したことがあるというような知識を生かし、**５**で述べた気づきを働かせた理解へと言語の習得を始めるであろう。

すでに、本市のいくつかの小学校では、本システムを活用した授業が行われている。本誌10・11月合併号にその実践が紹介されているのでぜひ再読いただきたい。

７　おわりに

中学校では、校内の英語科教員同士が情報交換を密にして相互のブラッシュアップを図り、自校生徒の実態に合った５ラウンドシステムの研究と実践を重ねていただきたい。そして、市教委としても、本市生徒がいきいきと英語でやりとりする姿を実現するため、先生方とともに全力で本授業改革の研究と支援に取り組んでいく。

生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりの工夫

川口市立青木中学校　教諭　橋本　美咲子

1　はじめに

３８年間の教員生活、４回の『関ブロ』に携わり、市内外の先生方との授業づくり研究を通して、自分なりに手応えを感じている実践例を紹介します。

2　年間指導計画の作成について

(1)　１・２年生は、技術分野と家庭分野を学期ごとに分けて行う。この方法により、時季の偏りがなくなるとともに技家双方の授業が同じ条件で行える。

(2)　内容ＢとＣを１・２・３年すべてで扱う。

(3)　生徒の発達段階に応じた内容を設定する。

	1学期	2学期	3学期	家庭分野の内容
1年生	技術	家庭	技術	A家族・家庭生活(1)ｱ(3)ｱｲ，B衣食住の生活(1)ｱｲ(2)ｱ(4)ｱｲ
2年生	家庭	技術	家庭	B衣食住の生活(2)ｲ(3)ｱｲ(5)ｱｲ(6)ｱｲ，C消費生活・環境(1)ｱｲ(2)ｱｲ
3年生	隔週で行う			A家族・家庭生活(2)ｱｲ，B衣食住の生活(7)ｱ

3　生徒一人一人に体感させる、実感できる、学習内容について

(1)　課題解決的な学習における導入の工夫

○栄養の学習　学習意欲の向上を図るために、実験を見せる。温めた牛乳に酢を混ぜると凝固する様子から、たんぱく質の性質を実感させることができる。

(2)　実習・製作等の体験的な活動を中心とした展開の工夫

○幼児との触れ合い体験　体験で使用するおもちゃの製作を行い、遊び方の工夫を考え、実践する。

○うま味の食文化　だし汁(かつお節・昆布・煮干し・干ししいたけ)の味見を行い、だし汁を使用した和食の料理を考える。さらに、日本の日常食の一例である『一汁三菜』で、献立の作成をする。

(3)　実物の教材や教具の使用

○食品群別摂取量のめやす　５群(米)、３群と４群の野菜の概量の学習において

①中学生が必要とするエネルギー量を摂ることができる、容量約８００ml の弁当箱を利用する。

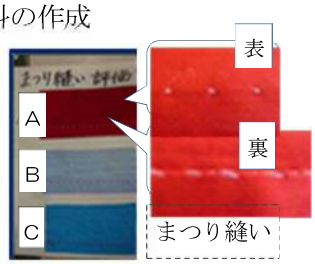
②旬の野菜を使用して確かめる。

○カラーコーディネートにおける日常着の学習に使用する布見本の使用　衣服のコーディネートで、デザイン画の作成にも活用する。

4　評価について

(1)　評価基準を明確にした資料の作成

縫い物の技能向上や教師と生徒との評価の整合性を図るために、手元に見本を置いて作業をする。Ｃの場合は、縫い直しをする機会を与える。



(2)　生徒の変容をみとるためのワークシートの作成

①調理実習や実験では実物が残らないので、写真等を活用したワークシートを使用する。

②ワークシートの記述から観点別の評価を行う。

第 55 回『関ブロ』
第 6 分科会資料より

5　終わりに

これまで様々な研修会で、他地域の先生方とも、教材研究や情報交換等を行ってきました。おかげさまで、家庭科教諭としての財産が増えました。ご指導賜りました諸先生方、研修を共にしていただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

教育ルポ①

川口市マスコット「きゅぽらん」

各学校で、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、子供たちの学びの充実のため様々な工夫を凝らした授業や行事が行われました。

各学校の取組の様子

戸塚東小学校

１年生　生活科校外学習（戸塚中台公園）

元郷学校給食センター栄養士の給食巡回指導

３年生　学校ファーム　さといも堀体験

芝中央小学校

校内作品展

小谷場中学校

ミカン狩り（学校の敷地内で育ったミカン）

オンライン会議アプリ(Zoom)を活用した授業

里小学校

ソーシャルディスタンスを意識したなかよし遊び（異学年交流）

青木中央小学校

開校記念日のお祝い（児童朝会にて）

神根東小学校

５年生　書きぞめ練習

木曽呂小学校

青陵高校とのスポーツ交流

神根中学校

２年生　福祉体験（総合的な学習の時間）

柳崎小学校

６年生　ミニスポーツ大会

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」
令和２年度埼玉県「がん教育」授業研究会（戸塚中学校　R2．11．19）

令和２年度　川口市立学校若手教職員対象　教職員事故根絶研修会
（川口市立教育研究所　R2．12．15、18）

教育ルポ②

川口市マスコット「きゅぽらん」

新郷地区では、「新郷オリンピック」が行われ、各学校で、立ち幅跳びや、ボール投げなどいろいろな種目で記録を競い合いました。子供たちは、のびのびと元気いっぱいに参加していました。

新郷オリンピック（R2．11）

新郷小学校

新郷南小学校

新郷東小学校

東本郷小学校

令和２年度　川口の元気　「いじめゼロサミット」（R2.12.16）

小学生の部：産業技術総合センター　多目的ホール
中学生の部：川口市立教育研究所　体育館